

豪州海上安全局の訪問について

当協会は11月1日（水）、Australian Maritime Safety Authority(豪州海上安全局:AMSA)のMick Kinley 最高経営責任者の訪問を受けました。

当協会側は土屋副会長、森重理事長、大森常務理事、越水常務理事、日本郵船株式会社 樋口常務執行役員、株式会社商船三井 佐々木海上安全部長、川崎汽船株式会社 綾専務執行役員が出席し、意見交換を行いました。

AMSA は最近の自動車船における火災に関心を抱いており、当方からは、新たな火災防止対策について関係者で情報共有を図っていること、リチウムイオン電池で発火した際の対応の困難さ、各社の取組などを紹介したところ、AMSA も発災時は迅速な初動が重要であり、その実施の困難さを十分理解しており、今後も有益な情報交換を行いたいと回答しました。

AMSA からは、最近のPSCでは出港差し止めに至る船舶の重大な瑕疵は減少傾向の一方で、機関損傷、人身事故などの深刻な事故が無くならないことに注視していると説明を受けました。各社からは本船の計画整備とPSC対応について、厳格なコロナウイルス感染症対策実施期間中は、訪船、乗組員交代、メーカー技師の派遣等の人の往来に加え、予備品の手配支給等も困難で、船舶の品質は低下していたかも知れないが、今は改善されたと説明しました。また、各社から、最近は船舶に高速衛星通信の導入を開始しており、船陸会議に活用するほか、乗組員の福利厚生にも大いに寄与していることを紹介したほか、豪州の一部港湾では水先人乗降設備に関する規則が厳しく、対応に苦慮していると理解を求めました。

AMSA は港湾の規則に直接関与しないものの、船社の要望があることは、関係者に伝えるとしたうえで、実務的な意見交換が行え、有益な訪問であったと述べました。

(日本船主協会 海務部)



(中央左から)越水常務、佐々木部長、樋口常務、森重理事長、AMSA Michael Drake氏、Mick Kinley氏、土屋副会長、綾専務、大森常務